

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人札幌市芸術文化財団	
施設名	札幌コンサートホールKitara	
内定額	11,105	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		309	303
年間事業本数（※1）	主催事業	32	27
	公演事業	9	9
	（内、本助成対象事業本数）	2	0
	人材養成事業	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	2	2
	普及啓発事業	20	15
	（内、本助成対象事業本数）	10	10
	その他 内容： 記入してください	0	0
貸館日数	ホールごとの貸館日数	474	475
	ホール名：大ホール 座席数：2,020	252	250
	ホール名：小ホール 座席数：459	222	225
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	50,651	51,015
	公演事業	8,844	11,244
	人材養成事業	1,792	1,947
	普及啓発事業	40,015	37,824
	その他 内容： 記入してください	0	0
	貸館事業入場者・参加者数	246,978	269,422
	その他 内容： 記入してください	0	0
	計	297,629	320,437
施設の利用率(%)		77.4%	80.1%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	9	9	8,844	76.07%		9					
	共催・提携公演（※2）	0	0	0								
	貸館公演（※3）	319	319	246,978	62.90%		319					
	計	328	328	255,822								
令和6年度	主催公演（※1）	9	11	11,244	78.5%		9					
	共催・提携公演（※2）	0	0	0								
	貸館公演（※3）	307	307	269,422	71.3%		307					
	計	316	318	280,666								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業番号	事業名	入場者数	入場者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点					
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意):利用者の声を反映し、利便性の高いサービスを提供					

(1) 令和6年度の自己評価

評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
人材養成事業	①受講者数・聴講者数・全事業の入場者数・入場率(事業平均値)	①受講者数・聴講者数・入場者数554人、入場率56%(要望書予算書内の記入数値から算出)	①<達成>655人、69%	①いずれの項目においても目標を達成することができた。人-01 リスト音楽院セミナーの受講者は、目標を超える応募があり、スケジュールを調整して全受講生の受講を可能とした。また、リスト音楽院開学150周年記念企画として招へいしたハーブ講師による「ハーブ特別レクチャー」の入場者数が目標値の約2.5倍となるなど、セミナー講師たちによる演奏会やレクチャーに多くの方が足を運んでくれた。また、人-02 札幌の音彩公演では、出演者の協力による積極的な誘客の成果により、満席に近い入場者数となった。		
	②受講者・聴講者・出演者および観客満足度と反応(事業平均値)	②受講者・聴講者・出演者・来場者アンケートの結果 受講者・聴講者・出演者「また参加したい」の回答率が90%以上、観客「とても良かった/良かった」の回答率が90%以上(R5年度実績 87%)	②<達成>【受講者・聴講者・出演者】「また参加したい」93% <達成>【観客】「とても良かった/良かった」公演平均94%			
	③専門家等からの評価	③事業終了後の講評シート、意見交換会において、事業内容や前年度の反省を活かし実施した改善等について概ね高評価を得る。音楽評論家の批評の新聞や専門誌への高評価の掲載。/成果と今後の課題を把握する。	③<意見交換会> リスト音楽院の講師と意見交換の機会を設け、セミナー運営面に対する評価と今後の課題について助言いただいた。 <新聞掲載> ・人-01リスト音楽院セミナー 北海道新聞 2025.3.18 朝刊 文化面掲載 北海道情報大学教授の三浦 洋氏により、「簡潔に構成された曲の秘める熱さが引き出された好演。」「顧みれば、影響関係のある作曲家3人の作風の違いが現れ出た演奏。曲の本質を捉えたプログラム構成の意味が強く実感された。」との批評を受ける。	③人-01の事業終了後の意見交換会では、リスト音楽院開学150周年の記念に相応しい企画内容であったと高評価をいただいた。また、事業内容に関して、新聞の批評でも高評価を得ることができた。		
	④人材養成事業の中で事業規模が最も大きいリスト音楽院セミナーにおける道内出身・在住者のセミナー参加率	④応募者のうち道内出身・在住者が40%以上、受講生のうち道内出身・在住者が40%以上、受講生コンサート出演者のうち道内出身・在住者50%以上(R5年度実績 39%/36%/56%)	④<達成>【応募者】道内出身・在住者52% <達成>【受講生】道内出身・在住者が52% <達成>【受講生コンサート出演者】道内出身・在住者56%	④人-01 リスト音楽院セミナー実行委員である地元音楽大学教授等が、自身が勤めている大学や指導している生徒に対して積極的な参加を促しているほか、地元楽器店や音楽関連団体等に積極的に情報を提供している。この成果により、いずれの項目においても目標を上回る数値となり、地元音楽大学学生のレベルアップに寄与した。		
普及啓発事業	①全事業の入場者数・入場率(事業平均値)	①2,914人/70.0%	①<未達成>2,866人/76.8%	①概ねすべての公演で目標値を達成することができたが、事業平均値においては目標値に届かなかった。特に、普-02 Kitaraファースト・コンサートでは、近隣3市町村から経費負担等の理由から参加辞退の申し出があったため目標としていた入場者数を達成することができなかった。		
	②観客満足度(事業平均値)	②来場者アンケートの結果「とてもよかった/よかった」の回答率が90%以上	②<達成>93%			
	③新たな聴衆の開拓(初入場率・市外からの来場率)(事業平均値)	③来場者アンケートの結果「初めて来館」回答率が30%以上、市外からの来場率が15%以上(参考:令和5年度実績27%/11%)	③<未達成>「初めて来館」13% <未達成>「市外からの来場」9%	③いずれも目標を達成することができなかったが、初来場率については普-04 Kitaraのバースデイ、普-09 0歳からのコンサートの2事業においては目標値に近い数値を達成することができた。いずれも赤ちゃんから入場可能な公演であることから、普段文化施設に足を運ぶ機会が少ない親子層に対するPRの成果が窺えた。また、市外からの来場率については平均1割程度となっており、北海道の音楽文化の拠点として市外在住者への来場促進に取り組んでいきたい。		
	④観客の反応	④来場者アンケートの自由記述欄で好意的評価や再来希望・再演希望の評価を得る。	④<達成>全ての公演で再来、再演を希望する評価を得た。	④いずれの公演においても、アンケートの自由記述欄では内容に対する評価が高く、さらに再来、再演を希望する声が多かった。		
	⑤専門家等からの評価	⑤講評シート、意見交換会において高評価を得る。音楽評論家の批評の新聞や専門誌への高評価の掲載。/成果と今後の課題を把握する。	⑤<ホール企画専門委員による講評シート> 「普-03Kitaraアフタヌーンコンサートシリーズ 「確かな技術、全ての曲において自らが編曲していることに驚嘆、ピアノの新たな世界を見ることができた。」との批評を受ける。 「普-06ハンガリーの俊英たち 「コダーイの作品となると、合唱などで親しんでいる方がいたのか、拍手が多かったように感じた。対訳がなくても楽しんで聴いていることも良く、素晴らしい公演であった。」との批評を受ける。	⑤講評シートや意見交換会にて高評価を得ることができた。今後も、札幌の芸術を牽引するホールとして、市民が北海道に居ながらにして世界水準の上質な音楽を楽しめる場を提供していく。		
	⑥無料のホール公式アプリの活用	⑥ホール公式アプリ使用者によるチケット購入数 申請事業合計600枚以上(参考:令和5年度実績546枚)	⑥<達成>5,244枚	⑥ホール公式アプリ会員は令和6年度に年間で約2,500名増加し、登録者数は1万人を突破した。アプリ会員に対して定期的な情報提供やホール主催事業のチケット先行販売などの特典を提供しており、特に普-01 Kitaraあ・ら・かると、普-04 Kitaraのバースデイ、普-09 0歳からのコンサートといった家族連れをターゲットとした公演については購入枚数が多い結果となった。		
	⑦カーテンコール時の観客による写真撮影の許諾(利用者の声反映、施設のPR強化)	⑦3公演以上で実施(R5年度実績 0公演)	⑦<達成>5公演で実施 ・普-01 Kitaraあ・ら・かると 3歳からのコンサート ・普-03 Kitaraアフタヌーンコンサートシリーズ アンセットシス、ザ・レヴ・サクソフォン・クワルテット ・普-04 Kitaraのバースデイ もっとじゅくり公演 ・普-09 0歳からのコンサート	⑦カーテンコール時の写真撮影を望む市民の声を反映した取り組みとして普及事業のうち出演者の協力を得ることができた5公演で実施した。来場記念や思い出作りの一環として撮影する方が一定数いたものの、期待していたSNSへの投稿などはあまり見られなかったが、ファンサービスの一環としてクラシックコンサートに対する敷居を下げ、継続して気軽に演奏会に足を運んでもらうきっかけを作ることができた。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

①企画力・制作力
・上質な音楽を届けるに加えて、演奏曲の理解を深めていただくための出演者による詩の朗読や、来場者の投票で演奏曲を決定するなどといった工夫を凝らした事業を展開した。

・大ホールのオルガン演奏を録画し、その演奏映像と合わせて学校の体育館に持ち運んだポジティブオルガンの生音との合奏プログラムは、初めてオルガンの音を聴く児童にとって好奇心をかきたてる魅力的なプログラムである。(普-07 学校オルガンアウトリーチ)

②発信力・影響力
海外アーティストの招へいをはじめ、国内で活躍するアーティスト、地元の音楽家など、優れたアーティストによる高い水準の事業を行った。

また、アーティスト自身の言葉によるプログラムの聴きどころなどをSNSを通して発信することで、集客に繋げる取り組みも行った。

③レジデントカンパニー・アーティスト
海外から1年の任期で招へいする外国籍の専属オルガニストの協力を得て多様な事業を展開している。赤ちゃんやオルガン初心者向け、オルガンファン向けと、プログラムのターゲットを分けて選曲・構成するほか、一貫したテーマを持ってプログラミングするなど、独創的な公演内容は来場者から好評を得ており、オルガン公演の来場者数増加に繋がっている。

④公演評
●人-01 リスト音楽院セミナー 第25回最優秀受講生 小野寺 拓真氏 ハンガリーでのリサイタルレポートについて北海道新聞に掲載(2024年6月28日/谷 織恵)
●人-01 リスト音楽院セミナー リスト音楽院開学150周年記念ガラ・コンサートの批評を文化面に掲載(2025年3月4日/斉藤 高広)
●人-01 リスト音楽院セミナー クリストフ・パラーティ ヴァイオリンリサイタルの批評を文化面に掲載(2025年3月18日/三浦 洋)
●人-02 札幌の音彩公演の批評を掲載(2025年3月28日/斉藤 高広)

⑤その他
人-01 リスト音楽院セミナーの参加者のなかには、ノン・ディグリー・プログラム入試をきっかけにリスト音楽院へ留学して研鑽を積み、帰国後日本国内で活躍しているアーティストのほか、ハンガリーで職を得るなど、多彩な活躍を見せている。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①ヨーロッパから招聘するホール専属オルガニスト制度の活用	①ホール主催事業以外の事業(道内及び道外)にオルガニストが8回以上出演する。(過去三年間の平均値6回)	①<達成>8回出演	①専属オルガニストが道内外様々な地に赴きコンサートに出演した。道内公演では、地元オーケストラによる主催公演、キタラをメイン会場として毎年実施しているPMF公演、オルガンが設置されている大学や教会から出演依頼があり、キタラの取り組みを広く普及する機会となった。道外公演では、サントリーホールやシンフォニーホールの他、コンサートホール企画連絡会議館として連携している京都コンサートホールなどの全国主要都市に演奏会の開催を促し、専属オルガニストを活用して全国にオルガン音楽の普及を図ることができた。		
②人-01事業:リスト音楽院セミナー 受講者数・入場者数・入場率	②【セミナー受講生】30人/定員に対し100% (参考:令和5年度実績 30人/定員に対し100%) 【入場者数/入場率】867人/50% (参考:令和5年度実績720人/41.5%) 令和5年度実績より8.5%UP	②<達成>【セミナー受講生】31人/定員に対して100%超 ※内訳 ・ピアノ22人/定員20人 ・ヴァイオリン7人/定員7人 ・ハーブ2人/定員若干名 <未達成>【入場者数/入場率】824/51% ※内訳 講師によるコンサート1日目:229/50% 講師によるコンサート2日目:260/57% ハーブ特別レクチャー:126/37% 受講生コンサート:209/61%	②セミナー受講生は、目標人数を達成できた。特にピアノコースについては、レッスン日数を増やしたため、定員を超え、申込者全員を受け入れることができた。公演入場者は、4公演合算では目標を若干達成できなかったが、公演毎でみると地元音楽大学生を主な対象とするレクチャーコンサート以外の3公演では目標を達成できた。		
③人-01事業:リスト音楽院セミナー 内容の充実化と参加者の声反映	③前年度のセミナー参加者の声を踏まえ、下記内容の充実化をはかる。 ・受講生の練習場所の増加 ・レッスン日数の増加 ・コース内容の充実化	③<達成>参加者の声を踏まえてセミナーの内容を充実させた。 ※内訳 ・受講生の練習場所を増やした ・レッスン日数を増やした ・例年とは異なるジャンルのコースも実施した	③大ホールゾーンの使用していない楽屋も練習場所として開放し、練習場所が少ないという意見を解消することができた。セミナー期間を1日増やし、夜間のレッスンをやめて日中のレッスンのみで組むことができたため、聴講しやすい環境を整えることできたほか、講師の負担も軽減され、講師リサイクルのリハーサルの時間を十分に確保することができた。		
④普-06事業:ハンガリーの俊英たち 入場者数	④入場者数321人/入場率70%(参考:過去3年間の事業平均値:入場者数301人/入場率65%) 令和5年度実績より5%UP	④<達成>入場者数343人/入場率75% (令和5年度実績より5%UP)	④ハンガリーの若手音楽家を紹介するシリーズを継続して実施している成果があり、年々入場者数が増加しており、目標としていた入場者数/率を上回ることができた。		
⑤外国人来場者の意見徴収及び反映	⑤英語版アンケート設置公演を増やす(現在設置なし)	⑤<達成>令和6年7月から英語アンケートを設置した。 23公演で設置し12件の回答あり	⑤外国人来場者が増加していることを受け、英語版のアンケートを設置し外国人の声を収集したところ、公演内容やホールのサービス内容について満足度が高いことがわかったので、今後も引き続き言語や文化に関わらず芸術を楽しんでいただけるよう努めていきたい。		
⑥外国人による主催公演チケット購入時の利便性向上	⑥英語表記によるチケット購入画面の設置を行う。	⑥<達成>令和6年8月から英語版のチケット購入画面を設定した。チケット売上48枚あり	⑥英語版チケット購入画面を利用してのチケット購入実績があったため、今後も引き続き外国人がチケットを購入しやすい環境を提供していきたい。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

- ①人-01 リスト音楽院セミナー
当ホールはリスト音楽院と長年にわたって協定を結んでおり、開館当初から「リスト音楽院セミナー」を継続している。セミナーに参加した受講生のうち講師の推薦を受けた最優秀受講生をハンガリーで開催される大規模な音楽祭に派遣し、貴重な海外での演奏機会を提供していることは、日本の若手演奏家に海外での活躍を促進する大きなきっかけとなっている。
- ②人-01 リスト音楽院セミナー
「リスト音楽院セミナー」では日本に居ながらにして海外留学のチャンスを得ることができるノン・ディグリー・プログラム入試を実施しており、伝統の音楽院の門戸が日本の音楽を学ぶ学生に大きく開かれている。
- ③普-06 ハンガリーの俊英たち
本事業で招へいたアーティストと地元演奏家の交流を促進するため、札幌音楽家協議会および特定非営利活動法人 北海道国際音楽交流協会(ハイメス)という2団体との連携により「国際交流コンサート」を開催した。今回招へいたアーティストが声楽家であったことから、地元札幌で精力的に活動をしているソプラノ、バリトン歌手との共演のほか、ピアノ、ヴァイオリン、クラリネットといった楽器群とのアンサンブルなどを披露した。遠くヨーロッパの地で活躍する若きアーティストと、地元演奏家との国際交流機会を設けることによって、日本デビューとなる海外の若手アーティストの活躍の場の提供と海外の演奏家との共演による地元演奏家のレベルアップに寄与することができた。
- ④人-01 リスト音楽院セミナー
北海道新聞 2025.3.18 朝刊 文化面掲載
北海道情報大学教授の三浦 洋氏により、「簡潔に構成された曲の秘める熱さが引き出された好演。」「顧みれば、影響関係のある作曲家3人の作風の違いが現れ出た演奏。曲の本質を捉えたプログラム構成の意味が強く実感された。」との批評を受ける。

評価項目④:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①連携する地元教育機関(小・中・高・大学) ②連携する地元音楽家との事業の充実 ③連携する他都市のホール数	①小学校240校、中学校40校、高校2校、大学2校(現状維持) ②出演者へのアンケートの結果「とても満足/まあ満足」の回答率が80%以上 ③7施設以上	①<達成>小学校238校、中学校49校、高校2校、大学2校 ②<達成>100% ③<達成>8施設	①・小学校238校(普-02 Kitaraファースト・コンサート参加校) ・中学校49校(普-01 Kitaraあ・ら・かると コーラス&プラス公演参加校) ・高校2校(クリスマスオルガンコンサート参加校※助成対象外事業) ・大学2校(普-05 若い芽の音楽会公演参加校) ②すべての公演で地元音楽家から「貴重な機会となった」「この経験を糧により一層音楽活動に動んでいきたい」といった評価を得た。 ③以下に記載のホールとの連携を図ることができた。 ・ダネル弦楽四重奏団公演(※助成対象外事業): サントリーホール、サルビアホール、アクロス福岡、武蔵野市民文化会館、びわ湖ホール ・沼尻 竜典作曲「歌劇『竹取物語』」(共同制作支援事業にて採択): びわ湖ホール(再掲)、iichiko総合文化センター、やまぎん県民ホール ・専属オルガニストによる公演(助成対象外事業): サントリーホール(再掲)、ザ・シンフォニーホール、武蔵野市民文化会館(再掲)、京都コンサートホール		
④地域密着型連携事業数 ⑤子ども対象事業における満足度・再来館希望率 ⑥市民によるホールボランティア 活動満足度 ⑦市民によるホールボランティア在籍数	④5事業以上 ⑤普及事業2、4、7、9、10の来場者アンケートの結果【満足度】「とてもよかった/よかった」の回答率が90%以上【再来館希望率】「また来たい」の回答率が90%以上 ⑥ボランティアアンケートの結果「とても満足/まあ満足」の回答率が85%以上、「活動を生きがいとしている/日々の楽しみにしている」の回答が80%以上 ⑦100人以上を維持	④<達成>10事業 ⑤<達成>【満足度】93% <未達成>【再来館希望率】88% ⑥<未達成>【とても満足/まあ満足】71% <未達成>【活動を生きがいとしている/日々の楽しみにしている】11% ⑦<達成>令和6年度在籍者数102人(令和5年度からの継続:91名、令和6年度新加入:11名)	④以下に記載のとおり地域密着型事業として連携を図ることができた。 ・普-01 Kitaraあ・ら・かると: 地元音楽家の出演、地元飲食店とのタイアップ ・(JAL presents)クリスマスオルガンコンサート(※助成対象外事業): 札幌市主催ミュンヘンクリスマス市との広報連携 ・(株式会社クリーンコーポレーションpresents)オルガンウィンターコンサート(※助成対象外事業): さっぽろ雪まつりと広報連携) ・普-05 (北海道教育大学・札幌大谷大学・Kitara連携事業)若い芽の音楽会: 地元音楽大学からの推薦を受けた出演者 ・Kitaraアーティスト・サポートプログラム(※助成対象外事業): 地元音楽家の活動支援 ・普-10 子どものためのKitara参加型音楽会: 札幌市内特別支援学校、特別支援学級を招待 ・普-02 Kitaraファースト・コンサート: 札幌市内および近隣市町村の小学6年生を招待 ・普-07 学校DEカルチャー・オルガンクワイヤーコンサート: 札幌市内小学校へ持ち運び可能なポジティブオルガンで演奏会を実施 ・普-08 (札幌大谷大学・Kitara連携事業)パイプオルガン特別講義&体験レッスン: 地元音楽大学と連携し、授業の一環として実施 ・人-01 (札幌大谷大学・Kitara連携事業)ハープ特別レクチャー: 地元音楽大学と連携し、授業の一環として実施 ⑤いずれの公演においても高評価を得ることができた。全公演の再来館希望率は、90%の目標にわずかに届いていないが、赤ちゃんから入場可能な公演(普-04、普-09)は再来館希望率が90%を超えた。次年度以降も引き続き来場を促し、幼い頃からホールで音楽を楽しむ風土を育んでいく。 ⑥ボランティア活動に関するアンケートを実施し、概ね満足度が高いことが分かった。また、各人にとってボランティア活動がどのような位置付けとなっているかという設問に対しては、「生きがいや日々の楽しみ」以上に、自らの活動を広げ、生活をより豊かに彩りを添えたいという意識で参加している方が多かった。「世界的に評価が高いKitaraのホール運営の一助になりたい」という回答もあり、ボランティア活動を通して地元のホールに対する誇りや愛着の形成を促すことができた。 ⑦今年度は開館から初めて100名を超えた。ホールの施設見学などKitaraボランティアによる活動は市民から好評であり、ホール運営の支え手として欠かせない存在である。		
⑧貸館利用者の満足度 ⑨主催事業における観客のホールに対する満足度 ⑩主催事業におけるチケットセンター及びしせブシニスト対応の利用者満足度 ⑪防災訓練コサートの実施	⑧貸館利用者アンケートの結果、対応に「とても満足/まあ満足」の回答率が90%以上 ⑨全申請事業の来場者アンケートの結果ホールに対する満足度「とても満足/まあ満足」の回答率が90%以上 ⑩全申請事業の来場者アンケートの結果「とても満足/まあ満足」の回答率が90%以上 ⑪1回以上の実施/近隣住民と有事のための避難訓練を実施することにより、地域単位で防災への意識を醸造する。	⑧<達成>100% ⑨<達成>93% ⑩<未達成>86% ⑪<達成>1回実施	⑧ホール貸出し時のきめ細やかな対応により、高評価を得ることができた。 ⑨施設が持つ機能を最大限に発揮させ、利用者に安全で快適な環境を提供し、サービスの向上を図ることができた。 ⑩来場者マナーの注意について、レセプションistに対応を強く求める声も多く解決に至らなかった場合もあり、一部のお客様にご満足いただけなかったことから目標未達成という結果になったが、お客様からの声を踏まえて対応の見直しを図り、満足度向上を目指して改善に取り組んでいる。 ⑪令和7年1月30日(木)に札幌コンサートホール 第14回演奏会付き防災訓練を実施し276名の近隣住民が参加した。大規模施設での有事を想定した避難訓練を行い、防災意識の向上を図ることができた。		
⑫地元企業とのタイアップ実施 ⑬地元住民へ向けた広報・PRの充実化	⑫3企業以上 ⑬下記のとおり広報・PRを実施することにより、地元住民へピンポイントでホールの情報を届け、よりホールを身近に感じ愛着を持っていただく。 ・ローカルテレビ局への職員出演 ・FMラジオ局番組内コサート紹介コーナーへの職員出演 ・道内全小学校に配布されることも新聞への掲載 ・教育委員会と連携した小中学校への公演チラシ配布	⑫<達成>6社 以下に記載のとおり地元企業とのタイアップを実施することができた。 【アフタヌーンコンサートでの相互連携】 ・テラスレストランKitara 【ホールスポンサー企業の冠公演】 ・(JAL presents)クリスマスオルガンコンサート(※助成対象外事業) ・(株式会社クリーンコーポレーションpresents)オルガンウィンターコンサート(※助成対象外事業) 【来場者へのお菓子の提供】 ・白い恋人パーク(普-09 0歳からのコンサート、普-04 Kitaraのバースデーにて) 【テレビ・ラジオCM放映】 ・北海道放送株式会社(普-01 Kitaraあらかると、ロンドン交響楽団※助成対象外事業、Kitaraのクリスマス※助成対象外事業) ・株式会社テレビ北海道(小曾根 真 スペシャル・ピアノ・ソロ2024Summer※助成対象外事業) ⑬<達成>以下に記載のとおり地元住民へ向けた広報・PRを充実させた。 ・ローカルテレビ局への職員出演 →地元テレビ局のイベントPRコーナーにて、ホール専属オルガニストのデビューリサイタル(※助成対象外事業)の告知を行った。 ・FMラジオ局番組内コサート紹介コーナーへの職員出演 →地元ラジオ局に職員が赴き、番組内で毎月ホール主催事業のPRを行った。 ・道内全小学校に配布されることも新聞への掲載 →普-03 Kitaraアフタヌーンコンサートについて、こども新聞に広告を掲載した。 ・小中学校長会、PTA協議会と連携した小中学校への公演チラシ配布 →ホール主催事業のうち、子ども向けもしくは子どもたちに聴いてほしい公演について、チラシやポスターを学校単位で送付した。	⑫地元企業とタイアップし、芸術文化を通してまちの活性化と魅力向上に寄与することができた。 ⑬地域の関係機関と連携・協力し、地元住民へホールの情報を積極的に届けることで、ホールや芸術文化を身近に感じていただくことができた。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

- ①文化拠点
北海道唯一のプロオーケストラである札幌交響楽団、市内で活動する学生をはじめとした地元演奏家などの人的資源に加えて、パイプオルガンをはじめとした文化資源、そして人々が集う緑豊かな公園内に位置する立地環境をいかし、全館開放イベントを開催するなど地域の文化拠点として事業を展開している。
また、北海道に唯一の音楽専用ホールとして世界有数の音響をいかし、著名な音楽家の演奏を聴く機会を広く道内に提供する役割も担っている。
- ②地域連携
・普-01Kitaraあ・ら・かると、普-04 Kitaraのバースデー、普-09 0歳からのコンサートなどの事業を実施することで、赤ちゃん連れの家族で出かけることができる場所が限られるという課題の解決に取り組んでいる。
- ③児童生徒への機会提供
・普-02 Kitaraファースト・コンサートの参加校が市内小学校から近隣市町村まで広がり、札幌を中心とした広域圏へと当ホールが拠点となって児童生徒への鑑賞機会を提供し音楽文化の醸成を図っている。
・普-10子どものためのKitara参加型音楽会では、障がい種別を年々拡大し、障がいのある児童を広く受け入れており、令和7年度からの視覚障がい児童受け入れのために盲学校、教師の視察を実施するなど、障がいの者芸術活動への参加推進を図っている。
・普-01Kitaraあ・ら・かるとでは、中学生の吹奏楽、合唱団体との連携によって子ども達の活動の場を創出し、年間を通して子どもたちの参加機会を提供している。
- ④その他
・普-04 Kitaraのバースデー～まずはここら～公演では、地元ラジオ局との連携により、司会に地元ラジオパーソナリティを起用し、ラジオでの広報を強化した。コロナ禍をきっかけにradikoの需要が高まり、Z世代のラジオリスナーも増えていることから、新たな客層へのアプローチとなり、全体の4.7%がラジオをきっかけに来場し、13.5%の初来館に繋がることができた。
・当ホール職員が毎月主催公演をPRする地元人気ラジオ番組でのリスナープレゼントには、毎回多くの申し込みがある。「このプレゼントをきっかけにホールへ足を運んで素晴らしい体験ができた」との声が多く届いていることから、地域住民が芸術文化に触れるきっかけ作りに貢献している。
・各リハール室の申込において、ウェブ申請フォームによるオンライン申込が定着しており、約9割の申込がオンラインとなっている。また、貸館利用者との公演打合せを対面だけではなく、ZOOMを用いたオンラインも実施可能とするなど、貸館サービスの向上を図ることができた。

評価項目④: 多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①若年層の利用者数(申請事業のU25/U18チケット販売数) ②子育て世代に向けた事業数 ③子どもへの異文化体験機会の創出 ④障害者向け事業における満足度・再来館希望率	①1,820枚以上(要望書予算書内の記入数値から算出) ②3事業以上 ③海外出身の専属オルガニストによるアウトリーチ事業を実施し、参加児童及び引率教諭アンケート回答の結果【満足度】「とても満足/まあ満足」の回答率が95%以上 ④参加児童及び引率教諭アンケート回答の結果【満足度】「とても満足/まあ満足」の回答率が95%以上【再来館希望率】「また来たい」の回答率が95%以上(参考:令和5年度実績 91%/97%)	①<達成>1,317枚(人材育成71枚、普及啓発1,246枚) ※普-09 0歳からのコンサートについて、0歳から入場可能なコンサートにおいて、小中学生のチケット枚数を30枚のところ800枚と未就学児のチケット枚数を200枚のところ20枚と誤って見込んでしまったため、正しい目標値【目標値1,230枚(誤1,820枚)】に修正。 正)230(小中学生30、未就学児200)-①誤)820(小中学生800、未就学児20)-②①-②=590 目標値を590減らして1,230枚とする。 ②<達成>3事業実施 事業内訳 ・普-01 Kitaraあ・ら・かると ・普-09 0歳からのコンサート ・普-04 Kitaraのバースデイ ③<達成>参加児童「とても満足/まあ満足」回答率96%、引率教諭「とても満足/まあ満足」回答率100% ④<達成>【満足度】参加児童「とても満足/まあ満足」回答率97%(聴覚94.5%、身体100%、知的94.8%、オンライン100%)引率教諭「とても満足/まあ満足」回答率97%(聴覚100%、身体100%、知的100%、オンライン87.5%) <未達成>【再来館希望率】参加児童「行きたい/まあまあ行きたい」回答率94%(聴覚89%、身体100%、知的93.3%)引率教諭「行きたい/まあまあ行きたい」回答率98%(聴覚94.2%、身体100%、知的100%)	①人-02(札幌の音彩)と普-03(アフタヌーンコンサートシリーズ)は、目標値の倍を超えるU25チケットを販売することができた。 ②普-01(Kitaraあ・ら・かると)では、未就学児から入場可能な有料公演6公演のほか、年齢問わずどなたでも聴いていただけるようにロビーで無料公演及び体験型イベントも実施し、子育て世代が気軽に来館して楽しめる事業を実施することができた。 ③市内の小学校に移動可能な小型オルガンを持ち運び実施したアウトリーチコンサートでは、オルガン演奏のほか、外国人オルガニストの即興演奏やクイズを交えて児童と交流する場を作るなど、児童の興味を引き出すプログラムを提供し、異文化を体験する場を創出できた。 ④聴覚に障がいを持つ児童のアンケート回答者19名のうち、再来館を希望しない児童が2名いたが、概ねまた来たいと思っていただくことができた。引き続き、出演者や事業アドバイザーと意見交換しながら、音や音楽に慣れていない児童にも楽しんでいただけるプログラムを検討していきたい。		
⑤障害者向け事業における合理的配慮とサービスの充実 ⑥外国人学校の事業参加回数 ⑦外国人来場者の意見徴収及び反映(再掲) ⑧外国人による主催公演チケット購入時の利便性(再掲)	⑤下記の配慮等を徹底し、④の目標値を達成する。 ・障害種別ごとに公演内容・配慮を変更しての実施 ・スタッフ全員の手話による挨拶の徹底 ・点字プログラムの提供 ・聴覚障害者向けの公演時モニターによる進行補助 ⑥1回以上 ⑦英語版アンケート設置公演を増やす(現在設置なし)(再掲) ⑧英語表記によるチケット購入画面の設置を行う。(再掲)	⑤<達成>障がい種別ごとの公演内容・配慮を変更しての実施(聴覚障がい)出演者の身振りとあわせて教諭による同時手話を連携して実施、振動で音楽を楽しめるプログラムを実施(身体障がい)出演者と近いステージ上で実施、段差を避け車いすの導線確保した。(知的障がい)途中で鑑賞が困難になった児童用の休憩スペースをホワイエに設置して安心して最後まで参加していただいた。(手話)職員、レセプションист、舞台技術スタッフも挨拶の手話を習得し、児童に手話で挨拶をしてコミュニケーションをとることができた。(点字)提供した。(聴覚障がいモニター)設置して進行を補助した。 ⑥<達成>1回(普-02 Kitaraファースト・コンサートに北海道朝鮮初中高級学校が参加) ⑦<達成>令和6年7月から英語アンケートを設置した。23公演で設置し12件の回答あり ⑧<達成>令和6年8月から英語版のチケット購入画面を設定した。チケット売上48枚あり	⑤普-10「子どものためのKitara参加型音楽会」では、障がい種別ごとに公演内容を変更して実施し、参加児童が公演を安心して楽しめるような工夫を取り入れ、多くの児童が積極的に参加ワークに取り組むことができていた。スタッフとの手話挨拶では、返事をしてくれる児童が多数おり終始なごやかな雰囲気で開催することができた。 ⑥札幌市内小学6年生を招待して開催する普-02「Kitaraファースト・コンサート」に北海道朝鮮初中高級学校から児童5名、引率教諭3名が参加し国籍に関わらずあらゆる人々に音楽を届けることができた。 ⑦<3.②:国際性(任意)>に記載 ⑧<3.②:国際性(任意)>に記載		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

①プログラムの多様さ ・0歳から大人まで、年齢や性別を問わず多くの市民が気軽に音楽を楽しめる様々なジャンルのプログラムを実施したほか、高齢者や遠方の方にも来ていただきやすいように公演時間を土日祝日の昼間に設定するなど、幅広い層のニーズに対応した事業を実施した。 また、0歳児から入場可能なコンサートは毎年人気があるため、回数を増やして実施するなど多くの方に楽しんでいただける企画を実施した。(普-03アフタヌーンコンサートシリーズ、普-04 Kitaraのバースデイ、普-09 0歳からのコンサート)
②参画者の多様さ ・地元出身の若手アーティストを登用し、地元の音楽振興を図った。(普-01Kitaraあ・ら・かると 3歳からのコンサート、普-04 Kitaraのバースデイ、普-05若い芽の音楽会) ・普-08 オルガン特別講義は当初、学校の一授業として開催していたが、市民からの「オルガンについてもっと知りたい」という声に応え、平成30年度より一般聴講席も設けた。より開かれた講義形態をとったところ、年々リピーターやロコミにより講義への参加者が増え、令和6年度は募集した80席が完売となった。(普-08 オルガン特別講義) ・普-10 子どものためのKitara参加型音楽会では、障がいを持つ方への合理的配慮に関する専門的な知識を熟知するアドバイザーを九州から招へいし、プログラムの構成など専門的な視点からアドバイスと評価をいただくことができた。
③アクセシビリティ ・アウトリーチプログラムで児童に馴染みのある校歌を用いるほか、動物や自然を表す「ことば」からインスピレーションを得て即興演奏をするといったワークを取り入れた。これによって実演芸術に対する心理的ハードルを下げることができ、すべての児童が音楽を身近に感じ、意欲的に参加できるプログラムを作ることができた。(普-07 学校オルガンアウトリーチ) ・体に麻痺がある方などでも使いやすく配慮されており、平成27年に日本トイレ対象を受賞した「札幌式トイレ」を設置している。便座の周りに同じ高さのスペースを用意することで、いったんその部分に座り便座の上へ移動できるバリアフリートイレは、身障者に配慮した当ホールならではのトイレである。 ・0歳児から入場可能な公演では、授乳室、オムツ替えスペース、ベビーカー置場、ロビーでの鑑賞用モニター等を仮設し、来場者にあわせた利用しやすい形態の提供は利用者から高評価をいただいている。(普-9 0歳からのコンサート、普-10 子どものためのKitara参加型音楽会)

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点
ヨーロッパより毎年1年間の任期で招聘するホール専属オルガニストの積極的な活用により、オルガン音楽の普及および道内外ホールおよび海外の音楽教育機関との連携を強めていく。

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・ヨーロッパから招聘するホール専属オルガニスト制度の活用(再掲)	・ホール主催事業以外の事業(道内及び道外)にオルガニストが8回以上出演する。(再掲)(過去三年間の平均値6回)	《達成》8回出演 《詳細》 ①第24代専属オルガニスト ウィリアム・フィールドینگ6公演〔任期: 令和5年9月～令和6年8月〕 ・令和6年4月18日(木)「サントリーホール オルガンプロムナードコンサート」(会場: サントリーホール) ・令和6年5月25日(土)「パイプオルガンコンサート」(会場: 北星学園大学) ・令和6年6月8日(土)「森の響フレンド名曲コンサート」(会場: 札幌コンサートホールKitara ※主催は札幌交響楽団) ・令和6年6月20日(木)「教会音楽のタベ」(会場: 札幌北一条教会) ・令和6年7月28日(日)「PMF GALAコンサート」(会場: 札幌コンサートホールKitara ※主催はPMF組織委員会) ・令和6年8月24日(土)「ザ・シンフォニーホール オール・パツハ名曲選 真夏のオルガンコンサート2024」(会場: ザ・シンフォニーホール) ②第25代専属オルガニスト ファニー・クソー2公演〔任期: 令和6年9月～令和7年8月予定〕 ・令和6年12月14日(土)「クリスマス・オルガンコンサート」(会場: 武蔵野市民文化会館 小ホール) ・令和7年2月22日(土)「オムロン パイプオルガン コンサートシリーズ Vol.75世界のオルガニスト “ファニー・クソー”」(会場: 京都コンサートホール 大ホール)	専属オルガニストが道内外様々な地に赴きコンサートに出演した。道内公演では、地元オーケストラによる主催公演、キタラをメイン会場として毎年実施しているPMF公演、オルガンが設置されている大学や教会から出演依頼があり、キタラの取り組みを広く普及する機会となった。道外公演では、サントリーホールやシンフォニーホールの他、コンサートホール企画連絡会議館として連携している京都コンサートホールなどの全国主要都市に演奏会の開催を促し、専属オルガニストを活用して全国にオルガン音楽の普及を図ることができた。		

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。			・Kitaraファーストコンサートと障がい者向け事業については札幌市から予算とおりの補助金等を受理した。スポンサーからの協賛金を下記のとおり獲得した。 R6年度スポンサー(実績) ・ホールスポンサー ・ゴールドスポンサー(協賛金100万)2社 ・シルバースポンサー(協賛金50万)5社 ・事業スポンサー(協賛金10～30万)3社	・R6年度にスポンサー制度の見直しを図りPR活動に励んだ結果、シルバースポンサー7社のうち2社がゴールドスポンサーにグレードアップし、追加のご支援をいただくことができた。		
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。			R6年度広報(実績) ・Kitara公式ホームページ、SNS ・広報誌「Kitara NEWS」発行 ・テレビCM放映 ・ラジオ番組でのPR ・新聞広告掲載 ・地下鉄広告掲出(ドアステッカー、駅構内電照広告、ポスター) ・市内小中学校へのちらし配布等 R6年度会員制度(実績) Kitara Club会員数 4,186名 アプリ会員数 11,615名	・様々な媒体を利用した広報を計画的に実施することができ、チケット販売収益の目標値を超えることができた。 ・Kitara Clubでは会員に対し公演の先行販売や割引特典を広く周知した結果、長年減少していた会員が233名増え、会員増加に繋げることができた。		
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。			R6年度事業連携(実績) ・ダネル弦楽四重奏団(5館と連携した日本ツアーを実施) ・サントリーホール公演(6/10) ・サルビアホール(6/11) ・アクロス福岡(6/13) ・武蔵野市民文化会館(6/14) ・びわ湖ホール(6/15、16) ・沼尻竜典作曲 歌劇「竹取物語」(4館の共同制作で実施) ・びわ湖ホール(11/23、24) ・iichiko総合文化センター(12/1) ・やまぎん県民ホール(12/15) ・専属オルガニストを他都市に紹介した。 ・サントリーホール(4/18) ・ザ・シンフォニーホール(8/24) ・武蔵野市民文化会館(12/14) ・京都コンサートホール(2/22) ※詳細については評価項目⑤:自由設定(任意)に記載 ・コンサートホール企画連絡会議を7月(新潟)、2月(東京)に開催した。	・全国のホールと連携及び共同制作を行うことにより、多彩な音楽プログラムを市民に紹介し、事業費用の削減も図ることができた。 ・専属オルガニストを他都市に紹介することで、当ホールのPR及び全国他ホールとの交流促進にも繋がったほか、当ホールが推進しているオルガン事業も紹介することができ、国内におけるオルガン音楽の普及にも貢献することができた。 ・当ホールと同規模で主催事業を実施する6館でコンサートホール企画連絡会議を開催し、事業企画や広報等、全国ホール職員が一堂に会し情報交換を行いネットワークの構築を図ることができた。		
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。			・政策推進連絡会を年2回(7月、1月)実施した。 ・施設運営協議会を年4回(6月、9月、12月、3月)実施した。	・当ホールが市の施策を反映した施設運営を行うための連絡調整の場として政策推進連絡会を年2回開催し情報交換を行い市民サービス向上に対して意思疎通を図ることができた。 ・地域住民、音楽家、貸館利用者等から当ホールの運営管理(事業も含む)について幅広く意見をいただき、サービス向上に繋げることができた。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	芸術監督の配置はない。	ホール外部有識者によって構成される企画専門委員会や事業実行委員会、施設運営協議会、貸館審査委員会、事業アドバイザー、連携団体による評価や助言を引き続き受け、高品質の音楽事業実施に務める。	ホール外部有識者によって構成される企画専門委員会、事業(リスト音楽院セミナー)実行委員会、施設運営協議会等による評価や助言を受け、質の高い事業を展開した。	芸術監督は配置されていないが、スタッフの中には音大卒業生や他の音楽ホールで勤務した者など音楽に精通する職員もあり、スタッフの専門知識を生かしながら高い水準の音楽事業を実施できた。		
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。			札幌市の出資団体として施設の運営に見識がある札幌市のOBを配置し、長期的に安定した運営を実施している。	札幌市からの人的サポートを含めた経営的な支援を受け長期的に安定した運営を図ることができた。		
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。			R6年度研修(実績) ・新採用研修、コンプライアンス研修 ・普通救命講習 ・コンプライアンス研修 ・防火管理講習 ・不当な差別的取扱や合理的配慮に関する研修 ・管理職マネジメント研修 ・ホール運営知識向上研修 ・情報セキュリティポリシー研修 ・ビジネスマナー研修 ・地域創造ステージラボ	・基礎的な研修のほか、クラシック音楽の研修やホールの設計をした世界的な音響設計家、永田音響設計の豊田泰久氏に講義をしてもらい、専門的な知識を深める研修を実施した。 ・地域創造が主催するステージラボに職員を派遣し、専門的な分野の知識、習得に努めた。		
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。			・支配人を施設の統括責任者として配置する等、効率的な運営を行うため、責任体制の明確化を図るとともに、事業の特性を考慮した職員配置を実施している。 ・事業を企画する係に関しては、音楽経験者を配置するなど職能に合わせた人事配置をしている。	適切な職員配置を行うことで、仕事の効率化を図るとともに、魅力ある主催事業を企画し、質の高い音楽鑑賞の機会を提供できた。		
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用)に努めている。			財団正職員の採用試験を毎年実施している。35歳未満の採用枠を設け若年層の雇用に努めた。当ホールでは20代～60代までの幅広い年齢で構成されており、年代のバランスがとれている。	財団全体として若年層に配慮した適正な職員配置がされており、年齢バランスを考えた人材配置を図ることができた。		
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	30%を下回っている。	組織全体では女性職員の割合が多く、また、管理職への起用・評価において男女差がないため、近い将来自然に改善される。	財団全体としては女性管理職比率は28%だが、当ホールでは支配人を含む管理職は50%となっている。	管理職比率は、目標値を達成しており、女性管理職やリーダー職への登用に努めることができた。		
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。			育児・介護休業等の規程を整備し、ワークライフバランスの推進に努めた。また札幌市ワークライフバランスplus企業として認証を受けているほか、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を現在遂行中である。	仕事と育児、介護の休業制度を整備することで活用する職員も増え、働きやすい環境を整えることができた。		
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。			財団として情報セキュリティ基本規程を見直し、年間計画のもと、全職員対象によるコンプライアンス研修を実施した。また、管理職が講師となり職員に対し情報セキュリティポリシー研修を実施した。	年間計画を立て、研修を実施し、職員のコンプライアンス及び情報セキュリティに対する意識を高めることができた。		
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。			就業規則に基づく職場におけるハラスメントの防止等に関する方針について規程を整備した(R7年4月施行予定)。	職場におけるハラスメントを定義し、職場におけるハラスメントに関する相談(苦情)窓口を規程に盛り込むなどR7年4月制定に向けて規程を整備することができた。		
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。			財団の規定に基づき適正に契約書を交わすことができた。	適正な流れ様式で各事業の契約事務を行うことができた。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

① ミッションやビジョンを踏まえた事業ができたか
札幌コンサートホールでは、地域の劇場・音楽堂として、「誰もが気軽に音楽と出合い楽しむことができる開かれたホール」であるために、①社会包摂の機能を有する地域社会の醸成、②キタラでの交流が生み出す活力ある地域社会の構築、③市民が国際文化に触れるための機能の充実などの社会的役割を意識して、音楽文化の魅力を発信し、人々の心の豊かさを育むことができるよう事業を展開した。
札幌コンサートホールを管理運営する札幌市芸術文化財団では、札幌市の文化芸術振興を図り財団が運営する施設間で効率的な経営を実現するため、令和5年度から5か年の中期経営計画を策定している。当該計画に基づき、当ホールでは①社会包摂を意識した誰もが音楽を楽しめる事業の拡大、②未来を見据えた観客・アーティストの育成、③教育、福祉、観光など他分野における芸術文化の活用から生み出される特色ある事業の実施によって、地域芸術文化の拠点として札幌のアートシーンを牽引する役割を果たすことができ、その活動において概ね当初の目標を達成することができた。

② 具体的な成果
【公演事業】(助成対象外)
世界トップレベルのオーケストラや演奏家による魅力的な事業を実施し、世界的に評価されるホールの素晴らしい音響を通して市民に世界一流の優れた演奏の鑑賞機会を提供することができた。特に、2005年から当ホールが独自に招へいしている弦楽四重奏団による公演は、共演者に札幌出身のアーティストを選定し、当ホールがイニシアティブをとり全国5館と連携して日本ツアーを実施するなど、他館とのネットワークを活かして世界レベルの演奏を全国に広めることができ、高い評価を得るとともに、各地域の文化の振興に貢献することができた。

【人材養成事業】
開館から続くリスト音楽院との連携により、同音楽院から講師を招へいし札幌で世界水準の指導を受けることができるセミナーを開催した。令和6年度はリスト音楽院開学150周年を記念してピアノに加え、ヴァイオリンとハープの講師も招聘するなど内容をさらに充実させて実施し、全国から多数の受講者が集い、若手演奏家のレベル向上、育成に寄与することができた。

【普及啓発事業】
・札幌交響楽団と専属オルガニストによる演奏会に、札幌市内及び近郊の小学6年生約16,000人を招いた。札幌市教育委員会と連携して実施するこの演奏会は、ホールで本格的な生の演奏に触れる機会を提供し、子供たちの豊かな感性や想像力を育むことに繋がった。
・キタラのバースデイ公演では、キタラのシンボルであるパイプオルガンの音色を0歳の赤ちゃんから高齢者までワンコインで鑑賞できる公演を初めて企画し、午前、午後2公演共に目標の入場者数を超え、地域の文化拠点としてあらゆる人にキタラのオルガンが持つ魅力を普及し、地域文化芸術の発展に貢献することができた。
・障がいのある児童に向けたワークショップなど多様な人々が音楽文化に触れる機会を提供したほか、毎年人気の0歳児から入場可能なコンサートを増やすなど、社会包摂を意識した事業に積極的に取り組み、あらゆる人が身近なものとして芸術文化の魅力に触れ、楽しみながら交流できる機会を提供することができた。

【助成対象外事業】
・初となる全国4館ホールとのオペラ共同制作事業を実施し、他館の事業制作のノウハウを学ぶとともに、創造性の高い公演に地元音楽家を起用することで地域の音楽活動の活性化を図ることができた。
・当ホールが招へいした一流アーティスト(小曽根 真)が、当財団が管理運営する他施設のジュニアジャズスクール生を指導するワークショップを開催し、施設間で効率的な経営を実現しながら、未来の地元音楽家の育成、意欲向上につなげることができた。

【その他】
・市民のニーズや時代の音楽シーンを捉え、市民が心待ちにしているアーティストを起用した公演を実施し、有料会員組織Kitara Clubの会員数を8年ぶりに増加させ、新たなクラシックファン層の拡大に努めることができた。
・広報活動においては、当財団が管理運営する施設と連携し、互いの公演をはしごするスタンブラリーを実施するなど、市民が親しみやすい参加型企画を実施し、双方のファンに新たなジャンルの文化芸術の紹介を図るなど、市民の文化芸術水準の向上に寄与することができた。
・アプリでの情報発信を活用した広報や、カーテンコール時の写真撮影の許諾など、若い世代の情報収集方法に準じたサービスを取り入れ、クラシックコンサートに対する敷居を下げ、未来のクラシックファンの育成につなげることができた。
・収入増加に向けた取り組みとして、ホールスポンサー制度の見直しを図り、ゴールドスポンサーに対してオルガン公演への企業名の冠を付ける特典を新設した結果、シルバースポンサーからゴールドスポンサーへのランクアップを希望する2社から協賛を得ることができ、事業の収支改善を図ることができた。また、冠オルガン公演ではスポンサー企業の特色をいかした演出を取り入れ、コンサートに新たな魅力を付加することができた。
・札幌雪まつりやミュンヘン・クリスマス市 in Sapporoといった市内の観光イベントと連携し、一体となった広報を実施することで札幌の魅力向上に寄与することができた。
・外国人来場者が増加していることを受け、英語版チケット購入画面の新設、英語版アンケートの設置など外国人来場者にとっての利便性の向上を図った。また、札幌市の観光推進部と協力し、外国人向けの札幌市公式SNSアカウントでホール専属オルガニストやオペラ共同制作事業(英語字幕付き)のPRを行ったほか、他都市ホールと連携して実施した日本発の舞台芸術を多くの方に発信するため、地元大学に通う留学生などを招待した。これにより、札幌を訪れる外国人観光客に対し、札幌の文化芸術を楽しむ観光地としてアピールするだけでなく、市内に住む約2万人の居住外国人へのアプローチにも繋がりが、札幌の国際化及び地域の文化拠点としての社会包摂に寄与することができた。
・当ホールは、世界3大教育音楽祭の一つと評されているPMFのメイン会場であり、毎年7月には世界各国からオーディションで選ばれた若手音楽家がアカデミー生として札幌に集まる。PMFの開催が札幌市民にとってクラシックを身近に感じるきっかけとなり、音楽を楽しむための充実した環境となるよう、札幌市の特色ある事業と協力体制をとった。
・パイプオルガンを有効活用した事業を実施するため、開館以来ヨーロッパから毎年優秀な若手オルガニストを専属オルガニストとして採用しており、令和6年度には25人目のオルガニストを迎えた。オルガニストたちは、自身の出身国の作曲家や得意とする時代・作曲家の作品の紹介に積極的に取り組むことで、毎年多彩なオルガン音楽を市民に提供することができており、今年度のオルガニストは、公演ごとにテーマに沿った魅力的なプログラミングを得意としており、来場者から好評を得た。また、道内外のホールから多数の出演依頼を受けており、札幌のみならず国内での優れたオルガン音楽の紹介に貢献した。

③ 課題
□北海道の音楽文化拠点としての機能
・札幌への一極集中が避けられず、道内の他ホールでは、公演やアーティストの情報が入手しづらい問題を抱えているため、当ホールが中心となって道内ホールへ情報を発信し、北海道の文化拠点としてホール間をつなぐ機能を発揮する必要がある。

□あらゆる人が集う地域文化拠点としての機能
・あらゆる人が地域に溶け込むことができる芸術文化活動を、音楽の力を活用して実施していく必要があると考え、子育て世代の憩いの場、障がいの有無、国籍や年齢などに関わらず、全ての人が音楽の魅力に触れ、楽しむことができるホール運営を目指していく。

□次世代音楽文化の担い手、支え手の育成
・未来を担う子どもたちの豊かな感性や創造力を育み幼い頃から芸術文化に親しみを感じてもらえるよう、幼少期に当ホールでの音楽鑑賞の機会を提供すること、地元学生達に発表の機会を創出することで、将来のクラシックファンや次世代アーティストの育成を図る。

④ まとめ
来年度以降も引き続き、誰もが気軽に音楽と出合い楽しむことができる開かれたホールを目指し、課題を踏まえ劇場音楽堂が主催することの意義を捉えた事業を実施していく。また、オンライン技術等も効果的に活用し、多くの市民に音楽の力から生まれる感動と喜びを感じていただけるよう努めていく。
そして、札幌だけではなく、多彩な文化芸術に触れる機会が少ない道内ホールとも積極的に情報交換を行い、当ホールが先頭に立って道内ホールとの連携事業実施に繋げるなど、地域の文化拠点としての機能も発揮していく。
これからも、あらゆる音楽事業を通して感動の輪を全道、全国、全世界へ広げ、人々の人生における心の豊かさを育み、活力ある地域社会の構築に尽力していく。

・ 所見